

## 研究業績・社会活動「論文」

氏名(吉原 紳)

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
<b>「II. 論文」</b>				
1. ゴルフ場におけるイメージ形成 「パッティング」について	単著	1986.03	聖マリアンナ医科大学紀要 第15巻 第1号 p. 53～p. 61	ゴルフにおけるイメージ形成という心理的側面から、パッティングについて、距離や経験年数による違い、またプロゴルファーとアマチュアとの差についての比較検討した。
2. ゴルフ場におけるイメージ形成 (その2) プロゴルファーのリズムとタイミング	単著	1987.03	聖マリアンナ医科大学紀要 第16巻 第1号	ゴルフは様々な要因によってリズムとタイミングが狂いやすい。心と技と体の調和を主に全英オープンにおけるプロゴルファーのリズムとタイミングについて検討した。
3. ゴルフ場におけるイメージ形成 (その3) プロゴルファーのイメージングタイムの分析	単著	1987.03	日本体育学会神奈川支部紀要 体育学研究 第20号 p. 31～p. 35	日本でのトーナメントにおける日本のプロと米国のプロにおけるイメージング作りの違いについて検討した。
4. マスターズにおけるイメージングタイムの分析	単著	1987.07	聖マリアンナ医科大学紀要 第16巻 第2号 p. 137～p. 142	マスターズゴルフにおける世界のトッププロ7名についてそのイメージングタイムを計り、トッププロのリズムとタイミングの関係を考察した。
5. 全米女子オープンにおけるイメージングタイムの分析	単著	1988.04	聖マリアンナ医科大学紀要 第17巻 第1号 p. 53～p. 60	英国、米国、日本の女子のトッププレーヤーのリズムとタイミングをはかり日本の男子プロとの違いについて検討した。
6. 第16回コニカカップワールドレディーズゴルフトーナメント1988におけるイメージングタイムの分析	単著	1988.10	聖マリアンナ医科大学紀要 第17巻 第2号 p. 107～p. 114	前回の大会における日本、英国女子プロゴルファーの結果とコニカカップにおける結果の比較と2人のプレーヤーのコース攻略法、およびリズムとタイミングの関係について検討した。
7. 第25回ゴルフ日本シリーズにおけるリズムとタイミングについて	単著	1989.04	聖マリアンナ医科大学紀要 第18巻 第1号 p. 75～p. 80	ゴルフ日本シリーズにおける尾崎、青木、中村の3人を中心に、参加選手全員の18番ホールにおけるティショットアプローチ、パッティングについて分析した。
8. パッティングの距離とカップインの確立についての分析	単著	1989.05	日本体育学会神奈川支部紀要 体育学研究 第21号 p. 51～p. 53	被験者、男女30名により0.5M～5Mまでのパッティングについて、その確率を検討しハンディキャップの差のちがいについて分析した。
9. 女子格技競技の発展に伴う技術の比較研究	共著	1990.03	中京女子大学紀要 第24号 p. 55～p. 64	近年女子が男子競技種目への進出が多い。特に柔道、レスリングの国際大会における好成績が目される。そこで女子レスリング選手と男子選手との技術面について比較検討した。
10. ゴルフの安全対策 「ゴルフ場のアンケート調査による傷害、障害の実態」	共著	1990.03	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学(研究号) 第3巻 p. 45～p. 52	アンケート調査によるゴルフ場での事故についてプレーヤー及び従業員の調査とゴルフ場の救急医療体制について検討した。
11. 一般ゴルファーの実態 「中高年ゴルフ愛好家および他のスポーツ愛好家の持久性」	共著	1990.03	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学(研究号) 第3巻 p. 69～p. 74	ゴルフ愛好家、他のスポーツ愛好家との心肺持久性、血圧肥満度などを比較検討し、中高年者に運動としてのゴルフの効果について検討した。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
12. アンケート調査からみた一般ゴルファーの実態	共著	1990.03	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学 (研究号) 第3巻 p. 102～p. 106	軽負荷の運動であるゴルフにおける一般プレーヤーの健康状態やプレー中の事故の発生状況を知り、事故予防の一助とする為、調査し検討した。
13. 第17回コニカカップワールドレディーズゴルフトーナメント1989におけるリズムとタイミングについて	共著	1990.10	聖マリアンナ医科大学紀要 第18巻 第2号 p. 149～p. 158	第17回大会における岡本綾子とローラ・デイビスの2人のリズムとタイミングの結果および他のプレーヤーとの比較についての検討した。
14. ゴルフ場での安全対策「第6回」スポーツ傷害の予防と処置 (その3)	共著	1990.11	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー 11月号 p. 86～p. 89	スポーツ傷害時の救急処置、応急処置の基本及びテーピング、緊急時における心肺蘇生法について検討した。
15. アンケートによるゴルフ場での事故、障害の報告	単著	1991.03	日経BP社 日系スポーツメディスン p. 51～p. 55	アンケート調査により、今まで全くデータがなかったゴルフ場での事故と障害の実態を調査して報告したものである。
16. 手長とゴルフクラブのグリップの太さ (1)	共著	1991.03	日本体育学会神奈川支部紀要 体育学研究 第24号 p. 13～p. 18	ゴルフクラブのグリップの太さの選択と握力及び手長との関係を中心に、個人にあったグリップの太さについて調査し検討した。
17. ゴルフ場での安全対策に関する研究「ゴルフ場の事故と救急対策の実態にもとづいて」	共著	1991.04	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学 (研究号) Vol. 4 p. 31～p. 34	ゴルフ場での事故の対応をいかにすべきかを知る目的で、九州及び北海道について調査し、事故の実態と救急医療体制を中心に検討した。
18. ゴルフ愛好家における冠危険因子の実態	共著	1991.04	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学 (研究号) Vol. 4 p. 24～p. 30	ゴルフ場におけるアンケート調査により中高年者における冠危険因子の保有状況を検討する機会を得た、一般ゴルフ愛好家の冠危険因子保有状況とコントロール群及び他のスポーツ愛好家群と比較検討したものである。
19. ゴルフ愛好家のトレッドミル運動負荷試験の実態	共著	1991.04	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学 (研究号) Vol. 4 p. 44～p. 49	ゴルフプレーヤーの中高年者は顕性、不顕性に疾患を有することが多い。運動にあたって疾患の評価を知り、安全に楽しくプレーするためのメディカルチェックの重要性について検討した。
20. 一般ゴルファーの実態「一般ゴルフ愛好家の経費面からの検討」	共著	1991.05	聖マリアンナ医科大学紀要 第20巻 記念号 p. 59～p. 65	一般家庭にとってゴルフにかかる経費は他のスポーツに比し、割高であることは知られている、そこで実際にプレイにかかる経費を調査し検討した。
21. ゴルフ練習中の運動強度	共著	1991.05	聖マリアンナ医科大学紀要 第20巻 記念号 p. 67～p. 72	一般的なゴルファーの実体からみて運動効果のチェックとして、ゴルフ練習の運動強度を知ることは大切である。そこでゴルフ練習中の運動強度を心拍数、主観的運動強度を中心に検討した。
22. ゴルフ場での安全対策「アンケート調査から見たゴルフ場での事故の実態」	単著	1991.07	労働科学研究所出版部 労働の科学 第46巻 第9号 p. 33～p. 35	昨今ゴルフ人口は2000万人から3000万人ともいわれているが、ゴルフ場での事故の実態については今日まであまり知られていない、そこで事故対策(予防と処置)について、アンケート調査からみた事故の報告と対策について検討した。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
23. スイングにおよぼす聴覚の意義	共著	1992.04	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学(研究号) p.27～p.31	ゴルフクラブをスイングする時の聴覚の果たす役割を知る為に、聴覚を耳栓で管理して通常の状態とヘッドスピードおよびボールの飛距離を比較検討した。
24. パッティングにおよぼす聴覚の意義	共著	1992.04	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学(研究号) p.21～p.26	パターでパッティングをする時の聴覚の果たす役割を知る為に、聴覚を耳栓で管理して通常の状態と距離及び方向について比較検討した。
25. フィットネスクラブの安全管理にたいする実態調査	単著	1992.07	社団法人スポーツ産業団体 連合会 JSIF フォーラム	身体機能の日内変動は体力指標を知るのに無視できない、特に女子の体力測定をいつ行ったらよいかを知るための実験結果を分析した。
26. ゴルフ練習場における事故とその対策について	共著	1992.10	日本ゴルフ学会 ゴルフの科学(研究号) p.19～p.22	実態調査を行い、ゴルフ練習場における安全対策確立のための資料を得て、ゴルフ練習場における緊急医療体制を検討したものである。
27. ゴルフ場の安全対策 「危険防止のために万に備えた救急医療体制の整備を」	単著	1992.12	国際救命救急協会 月報	ゴルフ場における事故防止のためゴルフ場における救急医療体制の実態にもとずいた救急医療体制の方法と対策について検討した。
28. 高齢化社会に備え救急、安全指導のための有資格者の配置を	単著	1993.01	国際救命救急協会 月報	高齢化社会に備えた救急医療のあり方特に一般社会における救急医療ができる有資格者の問題、特に民間における資格認定について検討した。
29. 「マラガ」オリンピック学会 議に参加して	単著	1993.02	臨床スポーツ医学 Vol.110(2) p.227～p.229	スペイン「マラガ」における国際会議に参加して今年度発表論文の動向、及び将来研究の方向、さらに会議に参加した国々のスポーツ医学に対する調査について報告したものである。
30. スポーツクラブの実態とゴルフ場の比較	共著	1993.03	聖マリアンナ医科大学紀要 第22巻 p.43～p.47	救急医療の実態についてスポーツクラブ及びゴルフ練習場との比較をしたものである。特に救急医療のできるスタッフ及び提携病院について検討した。
31. 急病、傷害への応急処置と予防対策	単著	1993.03	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌	ゴルフ場へのアンケート調査の結果からゴルフ場における急病や何らかの傷害が起きたとき応急処置とそれらの準備状況を検討した。
32. ゴルフ場はスポーツクラブに比べ安全、救急対策に大幅な遅れ	単著	1993.04	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌 p.127～p.128	スポーツクラブとゴルフ練習場とのアンケート調査にもとずいて、ゴルフ練習場における救急医療のあり方について検討した。
33. ゴルフ場は救急医療体制の確立を急げ、全国のゴルフ場の遅れた応急実態	単著	1993.06	毎日エコノミスト 毎日新聞社 p.69～p.72	ゴルフ場へのアンケート調査で明らかになった救急医療体制をもとに事故の内容に対する対策、さらにプレーヤーにおけるメディカルチェックの重要性、救急処置訓練などの実態について検討した。
34. 近畿地区ゴルフ場の実態調査、安全対策、救急医療体制は不十分	単著	1993.06	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌 p.123～p.124	アンケート調査による近畿地区ゴルフ場の実態をもとに、安全対策救急医療体制についての検討、特にゴルフ場経営者に対する要望と研究課題について検討した。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
35. 肥満体育大学生の体脂肪率、血中脂質および Odolipoprotein と体育大生における肥満および脂質代謝異常の現状	共著	1994. 01	臨床スポーツ医学 Vol. 11(1) p. 103～p. 108	体育大学の健康診断結果によ彼らの意識の問題と実前における体脂肪、血中脂質からみた脂質代謝異常について検討した。
36. ゴルフ場での安全対策「アンケート調査によるゴルフ場での内科学的、外科学的事故の実体と予防対策」	共著	1994. 02	臨床スポーツ医学 Vol. 11(2) p. 137～p. 142	ゴルフ場へのアンケート調査による実態をふまえ実際に起こるゴルフ場での事故について内科的、外科的の事故の予防と対策について検討した。
37. 健康ゴルフ術のススメ	単著	1994. 07	日本医療企画 HOSPITOWNN p. 126～p. 129	ゴルフは中高年者にとって最適なスポーツでありその効果が期待されている。しかし事故も少なくない。従って健康で楽しいゴルフを行う方法について論述した。
38. 中国・四国地区の事故、救急体制の実態	単著	1994. 09	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌 p. 110～p. 111	近畿地区のゴルフ場の実態をふまえ、中国、四国地区ゴルフ場の事故と救急医療体制の実態について比較検討した。
39. ゴルフ場での事故症例とメディカルチェックの必要性	単著	1994. 11	臨床スポーツ医学 Vol. 11(10) p. 1152	アンケート調査の結果によってゴルフ場での事故が判明した。その結果プレーヤーの健康管理も大切な要因であり、メディカルチェックの必要性について提言したものである。
40. 中部地区の事故・急病の実態調査	単著	1995. 08	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌 p. 116～p. 117	関東、近畿、中国、四国のアンケート調査をふまえて中部地区も調査を行う。事故については他の地区と同じで死亡事故は年毎に増加傾向を示している。
41. ゴルフ場での救急車要請は夏場に集中・求められる自己の健康管理	単著	1995. 12	日経スポーツメディシン p. 8～p. 9	アンケート調査の結果、中部地区ばかりでなく他の地区でも事故は夏場に集中しているその原因、特に脱水症などにみられる自己管理について検討した。
42. オリンピックにおけるドーピングに関する学生の意識「一般大学と体育大学生の意識の違いの比較」	共著	1996. 05	国際武道大学紀要 第17巻 p. 13～p. 17	ドーピングに関する問題や話題はオリンピックが近づくにつれ関心を持つようになってくる。そこでドーピングに関して一般大学と体育大学生との意識について検討した。
43. ゴルフ場での突然死	単著	1996. 05	日経ビジネス p. 120	ゴルフ場での突然死、働き盛りのお父さん達に事故予防のための知識と予防対策と予防方法について提言した。
44. ニッポン型・スポーツが危ない	単著	1996. 08	集英社 Bart p. 62～p. 65	ゴルフ場での事故を検討するうち、この事故の多くが日本型スポーツの特徴がみられたそこで他の日本型スポーツの対策について検討した。
45. 関東甲信越ゴルフ場の自己の実態「救急医療施設とスタッフの整備を」	単著	1996. 10	ゴルフダイジェスト社 ゴルフ場セミナー ゴルフ場運営研究誌 p. 96～p. 97	6年前の関東甲信越のゴルフ場へのアンケート調査と今回の調査結果とについての比較し、さらに今後の課題について検討した。
46. 中高年のゴルフ中の事故「血圧亢進や不整脈出現に要注意」	単著	1996. 11	日経スポーツメディシン p. 50～p. 57	中高年者の多くが生活習慣病を持っている。特に冠動脈に何らかの異常がある人がゴルフをすると危険であり、メディカルチェックの必要性について検討した。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
47. 男女におけるハードル走のタイム動作、意識の関係 「初心者の場合」	共著	1997.02	ランニング研究 p. 47～p. 56	ハードル競技は走りながらハードルをより早く越えなければならない競技である。すなわちハードル上での技術が重要であり高い技術と敏捷性が要求される。従ってハードリングと走力について検討した。
48. 大学体育実技授業としてのトレーニングが筋肉、体脂肪率及び運動におよぼす影響について	共著	1997.03	運動とスポーツの科学 Vol. 2(1)	体育実技の中で行われるトレーニングで筋肉や体脂肪率がどのように変化し影響するかについて検討した。
49. 高温環境とスポーツ 「ゴルフ場での事故と暑さ対策」	単著	1997.07	臨床スポーツ医学 Vol. 14(7) p. 769～p. 773	多くのスポーツは暑い夏でも行われている。特に夏に行われるスポーツを対象に夏期スポーツの事故と暑さ対策に対して検討した。
50. ゴルフ中の突然死は年間200人 「死亡と結びつく運動不足、高血圧、高脂血症」	単著	1997.09	毎日新聞社 毎日ライフ p. 86～p. 89	ゴルフ中の突然死は年間200人以上と推定される。その原因を考えると、中高年者特有の生活習慣病があげられ、その対策について検討した。
51. ゴルフの運動強度	単著	1998.05	聖マリアンナ医科大学紀要 第27巻 p. 17～p. 21	ゴルフは基本的に歩くスポーツといわれている。果たして歩くだけで年間200人も突然死が起こるはずがない。プレー中の心拍から運動強度を検討した。
52. ゴルフ場での事故についての検討	単著	1998.07	臨床スポーツ医学 Vol. 15(7) p. 774～776	ゴルフ場での事故は、相変わらず多くその原因も多種である。事故の原因の中でプレーヤーの意識に関わる事故原因について検討した。
53. 健康スポーツと障害 「ねんに多い死亡事故」	単著	1999.03	日本アクセル・シュプリング出版 Medical Tribure Vol. 132(12) p. 17	健康のためにスポーツをといわれている、そんな中で中高年者がもっとも盛んに行うスポーツはゴルフであり、そのゴルフがスポーツの中で一番死亡事故が多い。事故をなくすための対策について検討した。
54. 微小視角における色覚特性	共著	1999.07	視覚の科学20:7-10 Japanese Journal of Visual Science	色の見え方は、いろいろの観測条件の違いにより変化する本研究は高原色を用いて、視角が色の見え方に及ぼす影響について検討した。
55. 農務通における物体色に対する色知覚	共著	1999.12	日本色彩学会誌 Vol. 23(4)	農務中における物体色に対する色知覚について、7人の色覚正常者により、マッチング法により定量的に測定した。その結果いずれの色票においても霧の濃度が高くなるに従い、見かけの彩度及び明度は減少した。
56. ゴルフ場内で起こる事故の実態と救急医療体制の現状 (於 CALIFORNIA U. S. A.)	共著	2000.03	専修大学体育研究紀要 第23号 p. 9～p. 15	アメリカ・カリフォルニア州における、ゴルフ場での事故の実態調査、調査方法及び調査項目は日本での調査と同じ方法で行った。その結果は日本の結果と同じに、死亡事故が多かった。
57. ゴルフの安全対策 「アンケート調査によるゴルフ場の傷害、障害の実態調査」	共著	2000.03	東洋大学紀要 教養課程編(保健体育) 第10号 p. 25～p. 31	事故の実態及び救急医療体制の現状について、調査がひとまず終了したので、これらを総括的にまとめ事故の実態についてその全容を報告する。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
58. ゴルフの安全対策 「アンケート調査によるゴルフ場の傷害、障害の実態調査（前回の調査から7年後の比較）」	単著	2000.05	聖マリアンナ医科大学紀要第29巻 p.9～p.15	7年前に近畿地区を対象に調査を行った、その結果を基に再び調査を行い前回の調査結果との比較検討を行った。
59. ゴルファーの内科的疾患と対策	単著	2000.12	臨床スポーツ医学第17巻 第12号別冊	アンケート調査によるゴルファーの内科的疾患・心筋梗塞・狭心症・脳梗塞など内科的疾患の実態と予防対策についての解説。
60. ゴルフの安全対策 「日本とアメリカの比較」	共著	2001.03	東洋大学スポーツ健康科学紀要	日本のゴルフ場での事故および救急医療体制の実態とアメリカにおけるゴルフ場での事故の実態を比較、検討した。
61. マンセル色素による濃霧中での色の見方評価	共著	2001.06	電気設備学会誌	農務中における物体色に対する物体色に対する色知覚についてマンセル色素を用いて定量的に測定し農務中の色の見え方について評価した。
62. 短時間呈示における最適表示色数 (LED道路情報版について)	共著	2001.07	視覚の科学 Japanese Journal of Visual Science	短時間呈示における色の見え方の変化について高原色を用いて、視角に及ぼす色の見え方についての検討。
63. Safety Measures in Golf	単著	2001.12	運動とスポーツの科学第7巻 第1号別冊	ゴルフ場へのアンケート調査による事故の実態調査。さらにプレー中の心拍変動、血圧についての測定を行い、プレー中の心拍、血圧について検討した。
64. 心拍の動揺から見た精神的作業負荷の様相	共著	2001.12	疲労と休養の科学第16巻 第1号別冊	現代社会における働く人々には身体的作業負荷より精神的作業負荷の方が多くなっている。この精神的負荷を自律神経の影響を受けている心拍リズムにより客観的に評価した。
65. ゴルフ場の安全対策 「アンケート調査によるゴルフ場の傷害・障害の実態」 (その11)	共著	2002.03	東洋大学紀要第2号	近畿地区におけるアンケート調査の実態。特に高齢化社会を迎えた現代におけるゴルファーへの警告と予防対策についての検討。
66. ゴルフ場の安全対策 「アンケート調査によるゴルフ場の傷害・障害の実態」 (その12)	共著	2002.03	東洋大学紀要第3号 p.11～p.18	今回は中国、四国、九州地区のゴルフ場、17県の合計474ヶ所のゴルフ場について2回目の実態調査を行った。突然死を予測はしていたが予想より多くの突然死の結果であった。
67. 高齢者における日常生活の活動度（ADL）と体力の低下特性	共著	2002.04	聖マリアンナ医科大学雑誌第30巻 第2号別冊	聖マリアンナ医科大学公開講座に参加された中高年齢者における体力テストと質問紙法による日常生活の活動を理解し、身体活動の重要性についての指標とした。
68. 特集●熱中症予防と暑さ対策 「種目別の暑さ対策」 6. ゴルフ	単著	2002.07	臨床スポーツ医学第19巻 第7号別冊	ゴルフプレーにおける熱中症予防と暑さ対策についての検討。特に水分の補給、ゴルフプレー中のアルコールについて。また、夏季におけるプレー中の雷についての検討と対策。
69. ゴルフ・プレー中の心拍変動 「MemCalc法による検討」	共著	2002.12	臨床スポーツ医学第19巻 第12号別冊	ゴルフプレー中における心拍変動についてメモカルク法により検討。自律神経と心拍について、さらに心拍特性についての検討。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
70. Altered Pre-exercise Resting Heart Affects Individual Rate -Oxygen Uptake Relation During Exercise 安静時の心拍変動を考慮した精度のより高い運動量の把握法	共著	2003. 12	体力科学 第52巻 第5号 p. 609～p. 620	ゴルフに代表される戸外での運動の特徴は、運動強度が低く長時間運動である。このような運動では酸素摂取量の直接測定は困難である。通常、個人ごとに心拍数-酸素摂取量の関係を確立して、それを用いて推定する方法がとられる。そこで当研究の目的は運動時の心拍数-酸素摂取量の関係式に及ぼす運動前の安静時心拍数の影響を解明することにあった。
71. ゴルフ場の安全対策 「アンケート調査によるゴルフ場の傷害・障害の実態」 (その13)	共著	2004. 03	東洋大学スポーツ健康科学 紀要第4号	ドイツ、オーストリアにおけるゴルフ場で起こる事故の実態調査について、特に救急医療体制の実態と突然死の事故についての検討。
72. ゴルフ場での安全対策 「ゴルフ場でのアンケート調査による事故(傷害・障害)の実態と予防対策についての検討」	共著	2005. 12	日本ゴルフ学 ゴルフの科学 Vol. 18, N03	アンケート調査によって日本全国のゴルフ場における、マナー違反の実態を検証しゴルファーに啓蒙するための資料を得た。
73. ゴルフにおけるスイング変化がパフォーマンスに及ぼす影響	共著	2007. 01	青山学院大学紀要	ゴルフ練習場で一般ゴルファーのスイングを撮影しスイング変化がどのようにパフォーマンスに影響を及ぼすか、さらにそのスイングの修正と指導にどの様に映像を活用するかを検討。
74. トルク測定に関する研究 (股関節と肘関節筋力の比較)	共著	2007. 08	武蔵野美術大学紀要 No. 40 pp. 133～pp. 141	
75. International comparison of golf course management	共著	2007. 12	運動スポーツの科学 Vol. 11(1) pp. 13～pp. 18	ヨーロッパ諸国およびオセアニア諸国のゴルフ場を対象に付帯設備の現状など、マネジメントの状況を調査し、国別に比較した結果、いくつかの付帯設備の設置状況や、情報サービスの提供方法に有意な差が認められた。
76. 日本のゴルフ場におけるマネジメントの現状と付帯設備とマーケティング策について	共著	2008. 03	ゴルフの科学 Vol. 20(3) pp. 1～pp. 5	インターネットの普及により全国のゴルフ場のマネジメント、マーケティングの状況が20年前と比べると大きく変化している。さらに付帯設備に関しても、顧客の立場に立ったきめの細かい傾向になりつつある。
77. ゴルフをもっと理解しよう:マナーを守って安全なゴルフを	共著	2008. 03	臨床スポーツ医学 Vol. 25(3) p. 283～286	近年の日本のゴルフ場における再編・淘汰の現状を踏まえて、われわれのアンケート調査データを用いて、マナー違反の現状と禿頭をまとめた。
78. ゴルフ場の安全対策:ゴルフ場へのアンケート調査による事故(外傷)の実態と予防対策についての検討	共著	2008. 04	臨床スポーツ医学 Vol. 25(4) p. 383～391	近畿地方を対象に安全対策に関する調査を実施した。救急事故の発生実態や救急医療体制などの知見を得た。さらに他の地区と比較することにより、プレーヤーのゴルフに対する意識の差がかいま見ることが出来る。
79. 日本のゴルフ場で見られるマナー違反の現状	共著	2008. 08	ゴルフの科学 Vol. 20(3) pp. 1～pp. 5	アンケート調査によって日本全国のゴルフ場における、マナー違反の実態を検証しゴルファーに啓蒙するための資料を得た。

著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
80. 中高年齢者における股関節筋力トルク値と大腰筋および脊柱起立筋断面積との関係	共著	2009.03	ライフデザイン学研究東洋大学 p.27~44	練習場における一般ゴルファー中高年齢者における股関節筋力、トルク値と大腰筋および脊柱起立筋断面積との関係を検証した、中高年齢者の過去の生活習慣からその特徴が明らかになった。貴重な資料を得た。
81. ゴルフ場マネジメントにおけるオフィシャルウェブサイト利用の現状とコンテンツの分析	共著	2009.03	体育学研究 第43号. 中央大学. p.18~20	インターネットの普及により全国のゴルフ場のマネジメント、マーケティングの状況が20年前と比べると大きく変化している。さらに付帯設備に関しても、顧客の立場に立ったきめの細かい傾向になりつつある。
82. Analysis of ski resort websites inJapan	共著	2009.07	APTA2009. Full paper in CD-ROM	日本におけるスキー場のオフィシャルウェブサイトの有無、ウェブサイトを有する場合のコンテンツを分析した。その結果、北海道や東北地域では、サイト開設の割合が低く、コンテンツの充実度も低い。
83. ゴルフ場で見られるマナー違反の国際調査	共著	2010.03	体育研究 第43号(中央大学) pp.18~pp.20	日本のゴルフ場で煮られるマナー違反の現状と諸外国に実態を調査して日本の現状と諸外国との違い、さらにどのような調査項目の違いによるかについて検証し多くの知見を得た。
84. 本学商学部におけるゴルフ授業履修学生の実態調査	共著	2010.03	体育研究 第44号(中央大学) pp.21~pp.26	中央大学商学部ゴルフ授業履修者に対して、ゴルフ授業を履修した目的、また理由、さらに履修した結果について目的が達成されたかについてアンケート調査を行い、履修の参考資料を得た。
85. ゴルフ場における顧客に対するサービスについての国際調査	共著	2010.03	体育研究 第44号(中央大学) pp.37~pp.40	日本全国のゴルフ場の顧客サービス渡諸外国のゴルフ場顧客サービスの調査をすることでサービス内容、目的の差を検証した。
86. トルク測定に関する研究：股関節の屈曲・伸展筋力と内転・外転筋力について	共著	2010.03	武蔵野美術大学紀要 No.40 pp.133~pp.141	武蔵野美術大学、スポーツ身体文化履修者について調査を行い、それぞれの関係に有意さや相関がみられるものと見られないものがあり貴重な基礎的資料を得ることが出来た。
87. 北米ゴルフ場における事故発生状況とリスクマネジメントに関する調査	共著	2010.12	臨床スポーツ医学 Vol.27(12) pp.1396~pp.1399	日本でのゴルフ場での事故は調査開始以来増え続けている、今回はアメリカ合衆国1138か所、カナダ1147か所のゴルフ場に対する調査を実施したので報告する。
88. ゴルフ場の安全対策：ゴルフ場へのアンケート調査による事故(外傷)の実態と予防対策についての検討	共著	2011.01	臨床スポーツ医学 Vol.28(1) p.92~p.104	近畿地区のゴルフ場を対象にゴルフ場での事故の実態を把握することを目的とした。10年前に踏査を行った結果と比較検討した、全体的にはお行変化を見られないが、死亡事故については、大きく減少した傾向がみられた。
89. アメリカ合衆国におけるゴルフ場マネジメントの現状顧客に対するサービスとマーケティング策	共著	2011.03	体育研究 第44号 pp.31~pp.33	アメリカ合衆国のゴルフ場マネジメントの特徴を把握し、今後の日本のゴルフ場マネジメントの方策を探るための基礎的資料を得ることを目的とした。今後の調査ではどのようなサービスについて明らかにしようとしているのか明確にする必要がある。



著書・学術論文の名称	単・共著の別	発行・発表年月日	発行所・発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
90. 子どもの体力向上を目指した教具の開発と評価	共著	2012.02	臨床スポーツ医学 第29巻第2号 p. 223～p. 227	
91. 商業スポーツ施設におけるオフィシャルウェブサイトの現状と分析—神奈川県内のゴルフ場を対象として—	共著	2012.03	体育研究 第45号 p. 43～p. 46	
92. 子どものスポーツ環境についての研究—関東・近畿のゴルフ場を対象として—	共著	2012.03	体育研究 第45号 p. 47～p. 50	
93. トルク測定に関する研究—陸上長距離選手の股関節筋力・骨密度および走力の関係について	共著	2013.03	武蔵野美術大学研究紀要 第43号 p. 149～p. 160	関東大学箱根駅伝選手を対象とした股関節筋力・骨密度および走力の関係についてデータを収集し、検討した。
94. 看護系女子学生の運動実施状況と体力テスト結果についての一考察	共著	2013.07	聖マリアンナ医科大学看護専門学校紀要 Vol. 6 2013 p. 23～p. 26	高等教育機関とくに看護系学生に関する報告書は少ない、そこで今回看護系学生の、体力・運動能力について測定する機会を得たのでその結果を報告する
95. A Cross-sectional Study on Females' Torque Strengths of the Hip Joint Muscle	共著	2013.07	瀬木学園紀要愛知みずほ大学 (7) pp. 26-31	
96. ゴルフ場における禁煙環境と受動喫煙対策—九州のゴルフ場に対する調査—	共著	2014.03	日本禁煙学会誌 Vol. 9 (No. 1) pp. 16-18	九州地区のゴルフ場に禁煙環境と受動喫煙対策に対するアンケート調査を行いその結果について報告した。それぞれに工夫を凝らした対策を行ってこれからの成果が楽しみである
97. 看護系女子学生の運動実施状況と体力テスト結果についての一考察 (第2報)	共著	2014.07	聖マリアンナ医科大学看護専門学校紀要 Vol. 7 2014 p. 41-44	これまでに高等教育機関に所属する学生の体力・運動能力に関する報告書は多くあるが医療系の学生、とりわけ看護系学生に特化してまとめられた報告は少ない今回第2報としての報告
98. 看護系女子学生の運動実施状況と体力テスト結果についての一考察 (第3報)	共著	2015.07	聖マリアンナ医科大学看護専門学校紀要 Vol. 8 2015	学生の体力・運動能力に関する報告書は多くあるが医療系の学生、とりわけ看護系学生に特化してまとめられた報告は少ない今回第3報としての報告
99. プロゴルファーのイメージングタイム A Study on Imaging Time of Professional Golfers	共著	2016.02	ゴルフの科学 Vol. 28 No. 2 2016	石川遼とJack Nicklaus、岡本綾子のイメージングタイムの分析
100. 看護系女子学生の運動実施状況と体力テスト結果についての一考察 (第4報)	共著	2016.09	聖マリアンナ医科大学看護専門学校紀要 Vol. 9 2016	学生の体力・運動能力に関する報告書は多くあるが医療系の学生、とりわけ看護系学生に特化してまとめられた報告は少ない今回第4報としての報告
101. ゴルフ場における事故の実態と予防対策 (中部地区について) — 大学ゴルフ授業における安全教育のための基礎調査 —	共著	2017.01	ゴルフ教育研究 第3巻 第1号	中部地区のゴルフ場にアンケート調査し、ゴルフ場での事故の実態を明らかにした。
102. 看護系女子学生の運動実施状況と体力テスト結果についての一考察 (第5報)	共著	2017.10	聖マリアンナ医科大学看護専門学校紀要 Vol. 10 2017	学生の体力・運動能力に関する報告書は多くあるが医療系の学生、とりわけ看護系学生に特化してまとめられた報告は少ない今回第5報としての報告